

5人の卒業報告

【20期生】

感謝の気持ちを伝えることの大切さを教えたい

中部地方の私立大学を卒業し、中高一貫校の国語教諭になった男性



施設での21年間の生活を通し、教え切れない人に支えられ、助けられ、国語教師になるという夢を勝ち取ることが出来ました。内定先の学校は中高一貫校で、予定では中学の担任をしながら中学・高校ともに国語科の教員として教壇に立つこととなります。現在は研修中で実際に授業に入っていないため、まだまだ教師としての実感は湧きません。しかし、4月からはクラスの担任と

して生徒のみんなを引っ張っていくことになると思うと、不安や緊張でいっぱいになります。今まで支えてくれた人たちの存在が、自然と背中を後押ししてくれています。いつでも頼れる人がいて、帰る場所がある。今までどれだけ守られて生きてきたのかを改めて実感しています。

私には小学生の時からずっとみてくれている職員のお兄さんがいます。そのお兄さんが昔から教えてくれていたことが、「自分より相手のことを考えられる人になりなさい」、「何気ないことでも感謝の気持ちを忘れず、必ずそれを口や態度で表しなさい」という二つの言葉です。この言葉を教師として生徒たちと向き合っていく中で教えていきたいと思っています。やはり何より大事なものは、どれだけ生徒たち一人ひとりのことを思っていて関わっていけるか。そして素直に感謝の気持ちを伝えることの大切さを教えることだと思います。自分自身、この言葉を実践していくことで周囲との人間関係が良くなると同時に、こころの充実感も得ることが出来ました。率先して実践していくことできっと生徒たちにその思いは伝わっていくと思います。

教師になりたいというきっかけをくれた先生が教えてくれた相田みつをさんの「あなたにめぐり逢えてほんとうによかった」という詩があります。世界中の人々が性別や国籍を問わず人と人とが巡り会う確率は、約70億分の1。日本国民を約1億3000万人とすると、老若男女関係なく日本人同士が会う確率は1億3000万分の1。たった一人の誰かと会う確率と考えると奇跡に近

い確率だと思います。そんな奇跡から生まれた人間関係。誰一人として不要な人はおらず、その出会いがあったからこそ今の自分があります。生徒たちにとって「めぐり逢えてほんとうによかった」と思われる教師になるようこれからも日々邁進していきたいと思います。

我慢した2年間、でも学生生活送られることに感謝

首都圏の私立大学を卒業し、老人ホーム運営会社の介護職となった女性

4年間の学生生活を振り返ると、この2年間はコロナウイルスの影響で、これまで当たり前に行えていた対面での授業ができなくなったり、友人との交流も思うようにいかなかったりと、我慢することが増えました。しかし、我慢しているのは自分だけではなく、コロナウイルスの影響でもっともっと苦しんでいる人たちがいることを思うと、どんな形になっても学生生活を続けていられることに感謝したいと思うようになりました。また、アルバイトでの収入が激減し、生活が苦しくなることにもありましたが、奨学金を頂いているおかげで、幸い授業料の支払いに困ることはなく卒業を迎えることができました。

大学生活の始まりと共に、初めての1人暮らしもスタートしました。最初は不安なことだらけでしたが、学校に慣れ余裕が出てくると、自炊することや自分の時間を過ごすことが楽しくなり、充実した生活を送ることができました。

いよいよ4月から社会人になります。いろいろな人に支えられて卒業できたことを忘れずに、人の役に立てるように頑張りたいと思います。

【22期生】

通学に片道2時間、コロナ禍でもがんばった

首都圏の動物関係の専門学校を卒業し、ペットショップに勤める女性

2年前の春、専門学校の入学式は校庭での青空入学式でした。入学後は新型コロナウイルスの影響で自宅での勉強でした。学校から送られてきたたくさんの課題は終わらせるのが大変でした。6月に学校に通うようになり、毎日片道2時間の通学は思ったより大変でした。学校で習うことは、初めて知ることが多く、楽しい反面覚えるのが大変でした。1年の時の実習は畑の草取りや穴掘りなどが多くて早く獣舎の清掃に入りたいと思っていましたが、2年になると実習の回数が増え獣舎の清掃に入る回数も増えて掃除する時間も早くなり、いろいろなことができました。



10月からの施設研修は、外部施設に行けず、学校の実習施設で行いました。獣舎の清掃やキャベツの収穫などで、実習施設の実習とほとんど同じだったけれど、きれいに清掃してどれだけ早く終わるか時間を決めながら行っていました。研修では自分で決めたテーマに取り組みました。私は、犬猫の手入れをテーマにして、犬のシャンプー、ブラッシング、爪切り、足裏バリカン、耳掃除、猫の爪切り、耳掃除をしました。

1月からは卒業試験が始まり、エサ作りや動物の捕獲・保定、ローピングや無口作り、消毒薬、教育普及活動などの試験を受けました。エサ作りや消毒薬は、テスト用のプリントの内容を覚えるのが大変でした。動物の捕獲・保定は体調を崩して習っていないくてどうすれば良いのか分からず大変でした。

学校祭は1年の時も2年の時もコロナの影響で小規模の開催でした。私はランチ班でご飯を作りました。小規模の開催でもすごく忙しくて大変でした。でも、いろいろなご飯を作れて楽しかったです。

この2年間はコロナの影響で分散授業になるなどいろいろあり、長いようで短く感じました。友達と一緒に勉強や実習した2年間はとても楽しかったです。3月2日に無事に卒業することができました。就職活動は、思ったよりも大変で何回もくじけそうになりましたが、就職先が決まるまで頑張って良かったです。これからは社会人として仕事を頑張っていきたいと思っています。

後輩に三つのアドバイス 学内行事には積極的に参加を

東北地方のビジネス専門学校を卒業し、レジャー産業社員になる女性

専門学校を卒業したことをご報告致します。体調面が優れなかったため、卒業式に参加することは叶わなかったのですが、その後学校に卒業証書を受け取りに行きました。その際、先生方からお声かけを頂き、とても感慨深い気持ちになると同時に、今後は社会人として今まで支えてくださった方々のように自分自身が支える側の人間になるのだなと感じました。

学校生活においては、オープンキャンパスのスタッフリーダーや、文化祭の実行委員、販売補助活動など多くの活動を通し、相手に対して指示を出すことや伝えることの大変さ、お金や信頼に関わることに対する責任感、自分自身の提案や活動内容の評価を得ることに対する達成感などを学び、とても充実した

2年間でした。

後輩へのアドバイスは3つあります。まず1つ目は少しでも気になると思った活動には積極的に参加した方が良いということです。自分自身、専門学校へ入る前は気になっていても「自分には無理だ」、「他の人がやるだろう」と心の中で言い訳をし、学校内の活動を避けていました。ですが、専門学校に入り勇気をだして様々な活動を行う中で、自分には出来ないことでも得意な人が必ず1人はいて、相手には出来ないけれど自分にはできる事があると知りました。学校内で行う活動は基本的に協力することで成り立ちます。なので、苦手なことが多い人でもそれを克服し、自分自身ができることを知るきっかけにもなるのでぜひ気になる活動があったら積極的に参加してみてください。

2つ目は結局、コミュニケーションが1番大事ということです。至る所で耳にたこができるほど言われていると思いますが、自分にとってのコミュニケーションは他の人とは少し違い、コミュニケーションは自分を守るすべになると考えています。学校やバイト先、家庭、施設なので辛いことがあった際に自分1人で考えてもどうにもならないこともあります。その際にコミュニケーションを取っておけば相談できる幅が広がります。

3つ目は自分が出来ないこと、苦手なことは早めに伝えて置くと良いということです。出来ないことや苦手なことを無理にやっても自分自身がとにかく疲れてしまいます。克服しろと言う人も中にはいますが、意外にサポートしてくれたり、アドバイスをしてくれたりする人も多くいます。また、伝えることで周りとも円滑に物事を進められるので、これは1番オススメです。

最後になりますが、遊技業界に就職いたします。遊技業界はあまり良くないイメージがあると思われがちです。また、業界について知らないことによる不安を抱えている方が多いのが現状です。ですが、遊技業界は接客業の中で1番と言ってもいいほど接客力の高い業界です。その業界で働くことで知見を増やし、遊技業に対する偏見を減らせて行けるような仕事が出来たらいいなと考えております。

【23期生】

まずは施設で働き、いずれ夢の自分の店持ちたい

九州の調理専門学校を卒業し、老人ホームに勤める男性

この度、調理師本科を卒業しました。1年間という短い間でしたが、内容はとても濃いものでした。初めは包丁の握りや使い方すら分からないということが多く、戸惑うこともたくさんありました。前期試験を通して少しずつ包丁の

扱いにも慣れることができました。しかし、後期の実技試験の際には和食の課題である桂剥きが合格ラインを超えることができず、追試という形にはなってしまいました。前日までの練習では、合格ラインに満たしていたのですが、本番当日のプレッシャーに負け一発で合格することができませんでした。追試では本番の反省を生かし難無く合格することができ、とてもホッとしました。座学では一つの科目も落とすことなく合格することができました。後期試験では前期試験の反省を生かして準備したのが良かったです。

今後の進路としては、福岡県にある住宅型有料老人ホームに内定をいただくことができました。高校卒業前は飲食店に入り、修行を積んでから自分の店を持つという目標をたてていましたが、コロナの状況も考え、少しずつ収まっているとは言え、またいつまん延防止などが発令されるか分からないといった状況を踏まえ、まずは施設で働こうと決意しました。コロナが完全に落ち着いたらもっとたくさんのことに挑戦したいと考えているので、その時に飲食店の方に仕事を変え、最終的な目標である自分の店を持つという夢に向かって頑張っていきたいと思います。

学校生活はこのコロナの中ではありますが、行事も多く、クラスの方とも話すことができました。冬休みが明けてからは話すことも増え、行事の際にも意見を出すなど自分からクラスに馴染むことができました。入学した頃に比べると一番人と関わるといった面では成長できたのではないかと思います。そういった成長した面を今度は新しい職場で活かしていきたいと思っています。

1年間ではありましたが、本当にたくさんの支援ありがとうございました。今後とも自分の夢に向かって精一杯努力して行きたいです。